

教員養成課程における音楽理論講義の一考察 (その2)

—ピアノレッスン経験者と未経験者の差異の経年変化について

鈴木 由美子*

On a Study for Music Theory Class in the Teacher Training Program —Change over the Years of Difference between Students Who Never Had Taken Piano Lessons and Those Who Once Had

Yumiko SUZUKI

概要

保育の現場ではピアノを弾くことの重要性は広く認識されており、このことを反映して、保育者養成・小学校教員養成の大学・短期大学では、ピアノの指導法を重視した教育カリキュラムが編成されている。その中で音楽理論の講義は、ピアノ指導法の理論的な基礎を教育する科目として位置付けられている。近年、幼少期からピアノのレッスンを受ける子供が減少しており、保育者養成の大学・短期大学に入学する学生も、入学前にピアノのレッスンを受けた経験がないものが増加している。このような中で、入学前のレッスン経験がある学生と、ない学生との間で、音楽理論の講義内容の理解と、音楽理論の目標の一つである読譜について、差があるかどうかを定量的に把握するために2016年度からアンケート調査を行ってきた。2017年度は、2016年度と同様に、名古屋女子大学文学部児童教育学科児童教育学専攻1年生Bクラスの、「音楽理論」を受講している38名を対象に行った。アンケートの分析対象者は38名で、そのうちピアノのレッスンの経験者は22名、未経験者は16名である。アンケートは、理解度などを4択式で回答する項目と、ピアノのレッスンの経験年数などを回答する項目からなっている。ピアノのレッスン経験の有無で学生を2つのグループに分け、4択式の回答から、理解が不足した2つの選択肢を回答した学生を理解不足の学生とみなして、それぞれのグループについて、その割合を計算した。これらの割合について、統計的な検定を行い、2016年度と2017年度の比較を行った。その結果、2017年度のアンケート結果においても、入学前のピアノのレッスン経験の有無が音楽理論の講義内容の理解に大きな影響を与えていることが確認できた。このことから、入学前のレッスンの未経験者に対して、音楽理論の指導方法を工夫する必要があることを示した。

1. はじめに

児童教育学科における音楽理論の講義は、カリキュラムの中で、ピアノの指導法と並んで重要な科目と位置付けられている。ところが、2016年度に著者が行なったアンケート調査による

* 非常勤講師

と、保育の現場で働いている人の間では、学生時代に学んだ音楽理論の講義は、あまり役立たなかったという人がいることがわかった。そのような人の特徴として、大学もしくは短期大学入学前にピアノのレッスンの経験がないことがあった(鈴木 2017)。上記のアンケートでは、対象人数が少なく、データからだけでは統計的に有意かどうかは判断することができなかった。この研究をきっかけとして、音楽理論の講義が保育者の音楽教育に役立っているかどうかの研究を開始した。まず、2016年度の音楽理論の講義の受講生を対象として、アンケートを行い、その結果について考察を行った(鈴木 2018)。ここでは、2016年度と同じアンケートを2017年度の音楽理論の講義の受講生を対象に行い、年度が変わることで、結果が変わるかどうかを考察する。

保育の現場でのピアノの重要性は広く認識されており、音楽理論の講義は、その理論的な基礎を教育する重要な科目として位置付けられている。ところが、その重要性にもかかわらず、音楽理論の教育の効果については明確にされていない。著者は2016年度に行った研究で、音楽理論の講義でアンケートを行い、音楽理論の理解度について調査を行った。このアンケートでは、大学入学前のピアノのレッスンの経験の有無が、講義の内容の理解度に関係しているかを調べ、アンケート項目のいくつかで統計的な差異があることがわかった。近年、幼少期からピアノのレッスンを受ける子供が減少しており(本間 2012、吉村ら 2015)、入学前のピアノのレッスンの経験の差が、音楽理論の内容の理解に影響を与えていることがこのアンケート調査で明らかになった。

昨年度のアンケートは、2016年度名古屋女子大学文学部児童教育学科児童教育学専攻1年生Bクラスの「音楽理論」の講義を受講している50名に対して実施した。全く同じアンケートを、2017年度名古屋女子大学文学部児童教育学科児童教育学専攻1年生Bクラスの「音楽理論」の講義を受講している38名について行った。アンケートは、4択式で回答する項目と、大学入学前のピアノのレッスンの経験の年数、ピアノのレッスンを開始した年齢を聞く項目からなっている。1年でもレッスンを受けているものを経験者、レッスン経験年数0のものを未経験者とした。また、電子オルガンのレッスンを受けているものは経験者、吹奏楽・軽音楽の経験者は未経験者に分類した。以降、これらを経験者、未経験者と呼ぶことにする。アンケートの回答者のうち、経験者をグループ1、未経験者をグループ2として2つのグループに分け、2つのグループの間で講義内容の理解の程度などについての回答に差があるかどうかを統計的に検定した。

2017年度のアンケートに対しても、2016年度と同様、帰無仮説として、グループ1とグループ2の間に差がないとして、95%と90%の棄却率で、帰無仮説が棄却されるかどうかを調べた。帰無仮説が棄却された場合、それぞれ95%、もしくは90%の確率で、経験者と未経験者の間で差があるということが言える。音楽理論の理解度については、4択式の回答のうち、理解度については、理解度の低い2つの選択肢を回答した割合を、その他は4択式のうち、ポジティブな2つの選択肢を回答した割合を、各グループについて計算し、その差を検定した。

2016年度の結果と大きく異なり、2017年度は、講義の内容に関する19項目の質問のうち、5項目で統計的に有意となった。5項目のうち、3項目は2016年度に有意となった項目と共通している。この原因と考えられることに関して、2016年度と2017年度のアンケート結果を考察する。

第2節ではアンケート項目について、第3節ではアンケートの分析について、第4節では音楽理論の講義へのフィードバック、第5節では、まとめと今後の課題について述べる。

2. 音楽理論の講義で実施したアンケート

音楽理論の講義の内容の理解度、楽譜を読むことの得意さ、音楽理論を受けてのピアノの実技の上達の度合いが、入学前のピアノレッスン経験の有無と関係があるかを調査するために表1のようなアンケートを行った。アンケート対象者は2017年度開講の文学部児童教育学科児童教育学専攻1年生Bクラスの「音楽理論」の登録者38名である。この38名のアンケート回収率は100%であった。アンケート対象者のなかで、経験者は22名、未経験者は16名である。前述のように経験者をグループ1、未経験者をグループ2と呼ぶことにする。アンケート実施日は2017年12月20日である。

表1 アンケートの項目

音楽理論の講義についてお聞きします。

(1) 「音程」は理解しましたか。

ア よくわかった イ わかった ウ 少しはわかった エ わからなかった

(1) - 1 全音・半音・度数の数え方は理解しましたか。

ア よくわかった イ わかった ウ 少しはわかった エ わからなかった

(1) - 2 完全音程・長短音程は理解しましたか。

ア よくわかった イ わかった ウ 少しはわかった エ わからなかった

(1) - 3 音程の増減を理解しましたか。

ア よくわかった イ わかった ウ 少しはわかった エ わからなかった

(2) 「音階」は理解しましたか。

ア よくわかった イ わかった ウ 少しはわかった エ わからなかった

(2) - 1 調号と主音を理解しましたか。

ア よくわかった イ わかった ウ 少しはわかった エ わからなかった

(2) - 2 長音階を理解しましたか。

ア よくわかった イ わかった ウ 少しはわかった エ わからなかった

(2) - 3 短音階を理解しましたか。

ア よくわかった イ わかった ウ 少しはわかった エ わからなかった

(2) - 4 平行調・同主調・下屬調・属調・近親調を理解しましたか。

ア よくわかった イ わかった ウ 少しはわかった エ わからなかった

(3) 「和音」は理解しましたか。

ア よくわかった イ わかった ウ 少しはわかった エ わからなかった

(3) - 1 主要三和音と属七の和音を理解しましたか。

ア よくわかった イ わかった ウ 少しはわかった エ わからなかった

(3) - 2 和音の基本形、転回形を理解しましたか。

ア よくわかった イ わかった ウ 少しはわかった エ わからなかった

(3) - 3 和音記号 (I・IV・V・V₇) とコードネームは理解しましたか。

ア よくわかった イ わかった ウ 少しはわかった エ わからなかった

(4) 「伴奏付け」を理解しましたか。

ア よくわかった イ わかった ウ 少しはわかった エ わからなかった

(5) 音符、休符、音名、拍子、反復記号、楽語を理解しましたか。

ア よくわかった イ わかった ウ 少しはわかった エ わからなかった

(6) 記譜 (ト音記号、ヘ音記号、調号、音符、音階を五線に書くこと) は理解しましたか。

ア よくわかった イ わかった ウ 少しはわかった エ わからなかった

(7) 楽譜を読むことは得意ですか。

ア 得意 イ まあまあ得意 ウ あまり得意ではない エ 得意ではない

(8) 楽譜を読む時に音楽理論の講義で学んだことが役に立ちますか

ア とても役にたつ イ 役にたつ ウ 少しは役にたつ エ 役に立たない

(9) 音楽理論の講義を受けてピアノ実技、弾き歌いが進歩しましたか。

ア かなり進歩した イ 進歩した ウ 少しは進歩した エ 進歩しない

音楽経験についてお聞きます。

(10) ピアノを習い始めた年齢を教えてください

才

(11) 大学入学前にピアノを習っていた年数を教えてください

年

(12) ピアノを習う以外の音楽活動 (電子オルガン、合唱、吹奏楽など) があれば活動内容と年数を教えてください。

活動内容： _____ 年

アンケートの項目のうち、(1)～(6)は講義内容の理解度を問うものである。項目(7)～(8)は読譜に関して問うものである。(9)は音楽理論の講義が実技に役立ったかどうかを問うものである。(7)～(9)は音楽理論の講義に対する総合的な評価と考えることができる。(10)～(12)は大学入学前のピアノレッスン・そのほかの音楽活動の有無を問うものである。今回のアンケートでは、ピアノのレッスン経験のない学生で、音楽活動をしている学生は2名いたが、前述のように電子オルガンの経験者を経験者に、軽音楽の経験者を未経験者に分類した。

アンケートの意図は、大学入学前のピアノのレッスン経験の有無が、音楽理論の内容の理解度などに影響を与えるかどうかを浮き彫りにすることである。2017年度は、2016年度にこのような意図で行ったアンケート結果との比較を行うために、同じアンケートを行った。

3. アンケートの分析

アンケートを分析するにあたっての詳細は、(鈴木 2018)で述べたのと同じである。すなわち、4択の回答(ア)～(エ)を、回答を数値化するために4から1に割り当てた。そのうえで、グループ1とグループ2について、各項目に1、もしくは2と答えた人数の割合を計算した。これらを p_1 、 p_2 とあらわす。すなわち、理解度については、理解度が低く、読譜については不得意、音楽理論を受けて実技が上達しなかった人数の割合をそれぞれ計算したことになる。その結果を表2に示す。

表2において、列 p_1 、 p_2 はグループ1とグループ2の学生の中で、理解が不十分な学生の割合を示している。これについて、2つのグループの間で差があるかどうかを統計的に検定したのが、次列の検定結果である。検定は、 p_1 、 p_2 についての比の検定を行った。帰無仮説は、「グループ1とグループ2の間に差がない」であり、片側95%、片側90%で検定を行った。表2の検定結果で「**」は95%で有意、「*」は90%で有意な項目を表している。

2017年度のアンケート結果は、2016年度の結果と大きく異なった。表3に2016年度のアンケート結果を示す。2016年度には、(1)「音程」の理解、特に(1) - 1の全音、半音、度数の数え方、(2)の「音階」、特に(2) - 2、(2) - 3の長音階・短音階の理解、(3)「和音」の理解、(5)「音符、休符、音名、拍子、反復記号、楽語」の理解、(6)記譜の理解、(7)楽譜を読むこと、(8)「楽譜を読むときに音楽理論が役立ったか」の10項目について、グループ1とグループ2の間の差について、95%で帰無仮説が棄却された。より緩やかな90%の基準では、(3) - 2の和音の基本形、転回形、(3) - 3の和音記号とコードネームの関係の2項目が棄却された。これらの12項目については、経験者と未経験者の間の割合に差があることが統計的に示された。ところが、2017年度には、わずか5項目、すなわち、(2) - 1調号と主音の理解、(5)「音符、休符、音名、拍子、反復記号、楽語」の理解、(6)記譜の理解、(7)楽譜を読むこと、(8)音楽理論の講義を受けてピアノ実技、弾き歌いが進歩したか。これらの項目について、経験者と未経験者の間に理解度などに差があることがわかる。2016年度との共通の項目は、(5)、(6)、(7)の3項目である。

2016年度のアンケートで、19項目中12項目に関して、経験者と未経験者の間に差があることは、音楽理論の講義の教育方法、すなわち授業内容や指導法に関して工夫すべき点があることを示唆していると(鈴木 2017)では指摘した。このことが、2017年度のアンケート結果で覆されるかどうかを検討する。

まず、音程の理解については、昨年度のアンケート結果を受けて、著者が講義中に丁寧に説明を行ったことが考えられる。これについては、数値的には示せないものの、講義中で著者が特に注意して丁寧に説明したことが反映されたと考えられる。初学者向けに丁寧に説明したことで、経験者にとっては、くど過ぎることになって、経験者の方が理解度が低くなっている可能性がある。

(2)以下の項目では、統計的に有意ではないが、ほとんどの項目で未経験者の理解度等が経験者の理解度等よりも低くなっている。すなわち、 p_1 の方が p_2 より小さくなっている。これは、アンケートの対象人数が昨年度よりも少なく、統計的に有意とまで言えなかった可能性がある。これについては、2016年度と2017年度のアンケート結果を合わせて、分析することで考察する。表4は2016年度と2017年度のアンケート結果を合わせて同様の分析を行った結果である。

表2 2017年度のアンケート項目の比の検定
(p_1 、 p_2 の値が大きいほど理解度等が低いことを示す)

アンケート項目	p_1	p_2	検定結果
(1) 「音程」は理解しましたか。	0.14	0.06	
(1) -1 全音・半音・度数の教え方は理解しましたか。	0.23	0.00	
(1) -2 完全音程・長短音程は理解しましたか。	0.14	0.00	
(1) -3 音程の増減を理解しましたか。	0.18	0.00	
(2) 「音階」は理解しましたか。	0.14	0.13	
(2) -1 調号と主音を理解しましたか。	0.05	0.25	**
(2) -2 長音階を理解しましたか。	0.18	0.38	
(2) -3 短音階を理解しましたか。	0.27	0.38	
(2) -4 平行調・同主調・下屬調・属調・近親調を理解しましたか。	0.27	0.44	
(3) 「和音」は理解しましたか。	0.23	0.38	
(3) -1 主要三和音と属七の和音を理解しましたか。	0.36	0.44	
(3) -2 和音の基本形、転回形を理解しましたか。	0.36	0.38	
(3) -3 和音記号 (I・IV・V・V ₇) とコードネームは理解しましたか。	0.32	0.56	
(4) 「伴奏付け」を理解しましたか。	0.50	0.50	
(5) 音符、休符、音名、拍子、反復記号、楽語を理解しましたか。	0.05	0.44	**
(6) 記譜 (ト音記号、ヘ音記号、調号、音符、音階を五線に書くこと) は理解しましたか。	0.05	0.50	**
(7) 楽譜を読むことは得意ですか。	0.36	0.81	**
(8) 楽譜を読む時に音楽理論の講義で学んだことが役に立ちますか	0.41	0.38	
(9) 音楽理論の講義を受けてピアノ実技、弾き歌いが進歩しましたか。	0.32	0.63	**

この結果を見ると、まず、音階については、2017年度の結果同様に差がないことがわかる。その他の項目のうち、統計的に有意となったのは、10項目である。これらのうち、2016年度のアンケートでも有意であったのは、7項目、2017年度のアンケートで有意であったのは、5項目であった。特に2017年度のアンケートで有意であった5項目は全て、2016年度、2017年度を合わせた分析では有意となった。また、2016年度で有意な差があって、2016年度、2017年度を合わせた分析で有意とならなかった項目も、音程に関する理解度以外では、いずれも未経験者の方が理解の度合い等が小さい。このことから、アンケートの対象人数が増えると、これらも有意な差となることが予想できる。

表3 2016年度のアンケート項目の比の検定（鈴木 2017）
 (p_1 、 p_2 の値が大きいほど理解度等が低いことを示す)

アンケート項目	p_1	p_2	検定結果
(1) 「音程」は理解しましたか。	0.06	0.24	**
(1) -1 全音・半音・度数の数え方は理解しましたか。	0.06	0.18	**
(1) -2 完全音程・長短音程は理解しましたか。	0.10	0.18	
(1) -3 音程の増減を理解しましたか。	0.10	0.18	
(2) 「音階」は理解しましたか。	0.13	0.29	**
(2) -1 調号と主音を理解しましたか。	0.19	0.29	
(2) -2 長音階を理解しましたか。	0.19	0.47	**
(2) -3 短音階を理解しましたか。	0.19	0.53	**
(2) -4 平行調・同主調・下屬調・属調・近親調を理解しましたか。	0.29	0.24	
(3) 「和音」は理解しましたか。	0.23	0.47	**
(3) -1 主要三和音と属七の和音を理解しましたか。	0.29	0.41	
(3) -2 和音の基本形、転回形を理解しましたか。	0.29	0.47	*
(3) -3 和音記号 (I・IV・V・V ₇) とコードネームは理解しましたか。	0.39	0.59	*
(4) 「伴奏付け」を理解しましたか。	0.52	0.65	
(5) 音符、休符、音名、拍子、反復記号、楽語を理解しましたか。	0.32	0.59	**
(6) 記譜（ト音記号、ヘ音記号、調号、音符、音階を五線に書くこと）は理解しましたか。	0.10	0.47	**
(7) 楽譜を読むことは得意ですか。	0.32	1.00	**
(8) 楽譜を読む時に音楽理論の講義で学んだことが役に立ちますか	0.42	0.71	**
(9) 音楽理論の講義を受けてピアノ実技、弾き歌いが進歩しましたか。	0.55	0.59	

表4 2016年度、2017年度を合わせたアンケート項目の比の検定
(p_1 、 p_2 の値が大きいほど理解度等が低いことを示す)

アンケート項目	p_1	p_2	検定結果
(1) 「音程」は理解しましたか。	0.109	0.129	
(1) -1 全音・半音・度数の教え方は理解しましたか。	0.127	0.097	
(1) -2 完全音程・長短音程は理解しましたか。	0.109	0.097	
(1) -3 音程の増減を理解しましたか。	0.145	0.065	
(2) 「音階」は理解しましたか。	0.145	0.194	
(2) -1 調号と主音を理解しましたか。	0.127	0.290	**
(2) -2 長音階を理解しましたか。	0.200	0.419	**
(2) -3 短音階を理解しましたか。	0.236	0.452	**
(2) -4 平行調・同主調・下屬調・属調・近親調を理解しましたか。	0.273	0.355	
(3) 「和音」は理解しましたか。	0.236	0.419	**
(3) -1 主要三和音と属七の和音を理解しましたか。	0.309	0.452	*
(3) -2 和音の基本形、転回形を理解しましたか。	0.327	0.419	
(3) -3 和音記号 (I・IV・V・V ₇) とコードネームは理解しましたか。	0.345	0.613	**
(4) 「伴奏付け」を理解しましたか。	0.491	0.613	
(5) 音符、休符、音名、拍子、反復記号、楽語を理解しましたか。	0.218	0.516	**
(6) 記譜 (ト音記号、ヘ音記号、調号、音符、音階を五線に書くこと) は理解しましたか。	0.091	0.484	**
(7) 楽譜を読むことは得意ですか。	0.364	0.903	**
(8) 楽譜を読む時に音楽理論の講義で学んだことが役に立ちますか	0.418	0.548	
(9) 音楽理論の講義を受けてピアノ実技、弾き歌いが進歩しましたか。	0.436	0.645	**

4. 音楽理論の講義内容の教育方法に関する考察

前節での2016年度、2017年度合わせた分析による知見を踏まえて、大学での音楽理論の講義内容の理解度の差について、統計的に有意であった項目それぞれについて、その差の原因と対策について考察する。2016年度、2017年度後期、著者が担当した音楽理論の講義の内容は、以下のようである。

- ・音程 (度数の教え方、完全1度、完全8度、完全4度、増4度、完全5度、減5度)
- ・音程 (派生音を含む音程)
- ・長音階 (ハ・ヘ・ト・ニ長調、音階名の名称) # bの順番
- ・音階 (派生音を含む音程)

- ・短音階（イ・ハ短調、自然短音階、和声的短音階、旋律的短音階、平行調、同主調）
- ・和音（ハ・ヘ・ト・ニ長調、主要三音階の基本形、属調、下屬調）
- ・和音（和音の機能、転回形、ハ・ヘ・ト・ニ長調のI IV V伴奏形）
- ・和音（V₇、I IV Vを含めた伴奏付け）
- ・伴奏付け、移調
- ・コードネーム（コードネームの種類と表記）
- ・コードネーム（コードネームによる伴奏付け）

この中で、2016年度のアンケートで、ピアノレッスンの未経験者が経験者より理解が行き届かないと統計的に示されたのは、以下の内容である。

- ・音程
- ・音階、特に長音階、短音階
- ・和音
- ・音符、休符、音名、拍子、反復記号、楽語

さらに、総合的な力として

- ・記譜の理解
- ・読譜

の合わせて6項目について未経験者のほうが経験者より理解度が低く、不得意と回答している。2017年度の講義では、特に音楽理論の基本である音程について、初学者でもわかるように丁寧に説明した。それにより、2017年度は、ピアノレッスン未経験者でも理解できたと考えられる。以下にその他の項目について具体的に説明する。

「音階」については、2017年度は有意な差はなかったものの、長音階と短音階については、未経験者の40%程度が理解できていない。2017年度は、未経験者にも配慮して講義を行ったので、長音階、短音階について、2016年度は50%程度だったのが、理解できていない学生の割合が減少した。

「和音」については、未経験者の理解度は2016年度、2017年度の間ほとんど差がない。それは、未経験者にとっては、いくら丁寧に講義を行ったとしても、和音の基本形、転回形は、初めて接する内容で、理解が不足したと考えられる。和音記号とコードネームについては、もともと難しい概念であるので、限られた時間の中での説明では、理解が不足したと考えられる。これについてもより詳しい調査が必要であるが、未経験者について、和音についての理解を2017年度よりもさらに慎重に確かめながら講義を進めていくほかはない。「音符、休符、音名、拍子、反復記号、楽語」についても、2017年度は改善しているものの、未経験者は44%近くが理解していない。ただし、質問の範囲が広く、何について理解できていないかが不明である。

「記譜」については、2017年度は、経験者の95%が理解しているのに対して、未経験者の半数が理解していない。これは、2016年度とほとんど同じ結果である。前年度にも言及したように、未経験者にとっては、和音の理解が不足したままで、さらに楽譜にも慣れない中で、記譜の理解が進まなかったと考えられる。

今までの項目の結果を反映して、「楽譜を読むこと」に関しては、2017年度は経験者の64%が得意としているのに対して、未経験者の19%のみが得意としている。この結果は2016年度とほぼ同様である。楽譜を読むことは、音楽理論の目標の一つであるので、このことは、音楽理論の講義内容と教育方法について、未経験者に対しては、さらに改善すべき点があることを示

している。さらに、「楽譜を読むことに関して、音楽理論の講義が役立っている」としたものは、2017年度は、経験者でも未経験者でも約40%となっており、ほとんど差が見られない。

「音楽理論の講義を受けて実技が進歩したか」という項目については、経験者は70%、未経験者は40%以上が、進歩したと回答している。2017年度は、経験者と未経験者との間には大きな差がある。著者は、ピアノの実技教育においても経験者と未経験者の違いを指摘したが(鈴木 2017)、音楽理論についても経験者と未経験者の差が見られた。2017年度の結果からも、2016年度の結果と同様に、音楽理論の内容を学生に理解させてピアノ教育を充実させるために、講義自体を経験者と未経験者に分けて行う必要があることがわかった。

5. おわりに

音楽理論の講義の改善のために、経験者と未経験者で講義内容の理解に差異があるかどうかを調べるアンケートを2016年度と同様、2017年度の名古屋女子大学文学部児童教育学科児童教育学専攻1年生のうち、2017年後期「音楽理論」Bクラス受講者に対して行った。アンケートの分析対象者は38名、そのうち、経験者は22名、未経験者は16名であった。2017年度と同様に、アンケートの統計的な分析の結果、入学前のピアノのレッスン経験が音楽理論の内容の理解に大きな差異を与えていることがわかった。大学での音楽理論の講義について、入学前のレッスン経験によって、指導法を工夫する必要性を指摘した。

今回のアンケート分析対象者の人数は38名で、統計的には十分な数と考えられるが、いくつかの項目について、2016年度の結果と合わせて分析することで、補足的な知見が得られた。今後、毎年度アンケートを行って、今回得られた知見をもとに講義の改善を行い、教育方法に活用することが考えられる。

謝 辞

アンケートに協力してくれた学生の皆様に感謝します。アンケートの統計分析については南山大学理工学部鈴木敦夫教授に助言を受けたのでここに感謝します。

参考文献

- [1] 本間千尋：日本におけるピアノ文化の普及－高度経済成長期の大衆文化を中心として－、慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要、No.74 (2012)、pp.33-54.
- [2] 鈴木由美子：保育者を目指す学生へのピアノ指導法の一考察、名古屋女子大学紀要、第63号 (2017)、pp.359-368.
- [3] 鈴木由美子：教員養成課程における音楽理論講義の一考察－ピアノレッスン経験者と未経験者の差異について、名古屋女子大学紀要、第64号 (2018)、pp.261-269.
- [4] 吉村淳子、芝崎美和：保育者養成におけるピアノ指導について－学生の自己効力感に着目して－、新見公立大学紀要、第36巻 (2015)、pp.59-66.